

護法堂拝殿

この長方形の拝殿は、圓教寺の奥の院の反対側にある中庭を横切って立つ護法堂に祀られている2柱の神々と密接に関連している。2つの護法堂の拝殿としての役割に加え、この建物は儀式や隣接する開山堂を訪れる巡礼者にも利用されている。

1589年に建てられたこの建物は、寺社建築の様式を融合させたもので、寺伝によると、かつては12世紀の伝説的僧兵であり、7歳から10歳まで書寫山で修行を行った武蔵坊弁慶(1155-1189)の学問所であったという。弁慶が使用したとされる実際の机は、寺の食堂の2階に展示されている。

日本の神社は、一般的に「本殿」と「拝殿」の2つの建築物で構成されている。護法堂の場合、本殿の代わりに、セットで護法堂と呼ばれる2つの建物がある。これらの建物には、圓教寺の守護神である乙天と若天が祀られている。拝殿の場所も一般的なそれとは異なり、中庭の向こう側にあり、護法堂の前面に付属しているのではなく、完全に独立している。